



まだ見ぬ企業と生徒を結ぶ 高校生対象合同企業説明会

積極採用企業が一堂に!! 熱気に満ちた企業説明会

株式会社ライセンスアカデミー（本社東京・新宿区）は昨年12月21日、愛知県西尾市で高校生対象の合同企業説明会を開催した。

当日は、高校新卒者採用に意欲的な企業28社が出席。西尾市を中心に、近隣の高等学校から、就職志望の生徒が来場し、各企業の人事・採用担当者から業界事情や企業情報に関する説明を受けた。

参加した高校生は、自身の興味・関心に合わせて各企業のブースを訪れ、熱心にメモを取ったり積極的に質問をしたりする様子などが見受けられた。

説明会終了後、生徒からは「やりたいことが決まっていなくて何となく参加しただけでしたが、担当の方

の話を聞いて、おもしろそうだと感じた」「名前を聞いたことがない会社の話を聞きに行ったところ、実はすごい会社なのだと分かった」などの声が上がった。一人で5社以上回った生徒の姿もあり、しっかりと情報収集ができたようだ。

生徒の様子を見守っていた愛知県立一色高等学校（愛知県西尾市）の五十嵐智成教諭は「企業の担当者がとても明るく接しやすかった。生徒たちも積極的に話を聞こうと各社を回っており、企業側もていねいに答えていただき、しっかり話を聞くことができたようだ」と、評価した。

「自社の魅力を伝えられた！」 採用担当者から好評価続々

出展した企業に好評を博した今回の合同企業説明

会。終了後、製造業のある担当者は、「有名な企業以外は、高校生の就職希望者となかなか知り合える機会がない中で、当社の強みを伝えられる機会が持て良かった」と、手応えを語る。

一方、医療・福祉業の担当者は、「高校生が就職先を考える場合に、業界イメージが先行して判断されている。以前に比べて福祉業界の労働環境はかなり改善されているということを知ってもらえる機会になった」と、満足気な様子を隠さない。高校生・企業共に充実したイベントになったと言えるだろう。

採用ルールを順守した上で 業界研究・企業理解を促進

高校生の就職活動については、学校教育の充実を図りながら、就職希望者の適正な職業選択の機会を確保することを目的に、各都道府県の就職問題連絡協議会（各県労働局主催＝各都道府県、教育委員会、中学校および高等学校、事業主団体、ハローワーク、その他関係機関の代表により構成）において協議が行われ、



昨秋の11月13日、愛知県産業労働センター（ウインクあいち、名古屋市）で高校新卒者採用についてのセミナーが開催され、企業42社が参加した。

セミナーでは、高卒就職の状況や高校生に関する採用・就職活動のルール、高校現場の就職指導の流れ、また生徒・教員・保護者の傾向、企業が高校新卒者採用において実施できる内容などがテーマとなった。参加した企業の人事・採用担当者らは、情報を聞き漏らすことのないよう熱心に耳を傾けていた。

近年、高校新卒者に対する求人需要は増加傾向にある。いわゆる「売り手市場」の状況であって、それに伴い、「以前は付き合いのあった高校から最近は

送り込んでもらえる生徒数が減っている」「送ってもらえなくなった」という声が聞かれるなど、人材獲得に苦戦している企業が少なくないのが現状だ。

その一方、高校生の就職活動については、大学生とは大きく異なるため、どのような流れで生徒が就職先を決めていくのかがあまり知られておらず、採用できない課題を解決する方法が分からないという企業も多い。

熱気の「高卒採用セミナー」

東海地区では就職希望者100人の高校に1,000件以上の求人が寄せられている実例が報告されており、進路指導・就職指導担当の教諭でも数多くの企業の個性や違いをすべて理解し生徒に紹介するというのは現実的ではない。そのため、「どのような生徒が自社の業務に合っているのか」「生徒にどのように伝えてもらいたいのか」といった内容を各企業自身が考え、現実的な採用ターゲット像を描いて活動を行うことが必要だ。

加えて、企業が採用に向けてしっかりとした情報を高校や生徒に提供することは、結果として生徒の就職後のミスマッチ回避にもつながる。企業側自身も果たすべき役割を十二分に理解しておく必要があるだろう。

現状、企業の人事・採用担当者からは「高校生の採用について企業がすることはほとんどない」「高校の先生方と親しくなり、先生方から生徒のみなさんに紹介してもらうことが重要なのではないか」という声も多く上がる。

他方、高校生が就職先を選ぶ際には、「会社名を聞いたことがあるから」「先生や親が薦めたから」という基準や判断軸であることが少なくない。しかし、生徒が「ここで働きたい！」という自分自身の意思で就職することが本来の就職選択の在り方であるとすれば、高校と採用企業、行政機関等が協働して就職環境を整え、高校生が自己肯定感を持って就職先企業や業界を選ぶことができるように、十分な機会を用意すべきだろう。



企業説明会 採用セミナー

採用担当者からのメッセージ

流通小売(スーパーマーケット)

今回参加した合同企業説明会では、「会話が持つ力」を実感しました。一方的に会社の説明をするのではなく、生徒の疑問を解消するコミュニケーションが、求人票だけでは表すことのできない魅力を知ってもらうことにつながりました。



スーパーマーケット企業

専門店(呉服・宝石)

黙々と作業をするだけでみなさんは満足ですか？ 型がない業界だからこそ、チームと一緒に成長することができます。みなさんの言葉で、みなさんらしい接客方法で、お客様と対話をし、共に喜びを分かち合える仕事です。



株式会社ほていや

流通小売(薬局)

みなさんはコンビニエンス・ストアやスーパーマーケット、ドラッグストアがない社会を考えたことがありますか？ とても不便ですね。私たち小売業は人の身近な生活を支える存在です。一緒に地域社会に貢献できればいいですね。



ゲンキー株式会社

製造

より一層のグローバル化やテクノロジーの進化により、企業自身や働き方は大きく変化します。早期に職業観や勤労観を育むためにも、できる限り多くの企業の話聞いて、将来について考えて欲しいと思います。



株式会社ニッセイ

ルールが設定される仕組みになっている。ここでの申し合わせ事項に原則沿う必要があるほか、高校の教諭を通して進めなければならない点が大学生の就職活動とは大きく異なる特徴だ。

ラ社ではその精神を尊重し、かつルールを遵守した上で、就職志望の高校生の業界研究・企業理解促進を目的に、合同企業説明会を開催している。高校生は大学生に比べ、企業関係者から話を直接聞く機会が相対

的に少ない。また、企業側に立てば、高校生に自社をより深く理解して欲しいとの想いはあるものの、伝えられる場が極めて限られているのが実状だ。

高校生を対象とする合同企業説明会が、両者の想いを相互に伝える機能を果たしていることはもちろん、高校生が多様な業界の話聞けることで、より広くて深い業界研究にもつながるといふ効用が期待できるのも確かだろう。

愛知県 平成31年3月高校新卒予定者 就職内定率、5年連続70%超え

平成31年3月の新規高等学校卒業予定者の就職内定率が、昨年度を上回る状況で推移している。

愛知労働局の発表によれば、今春卒業する高校生の平成30年9月末現在の就職内定者数は対前年比1.6%増の9,022人で、就職内定率は同0.4%高い74.5%と、5年連続の70%超えとなっている。

全体の状況に関しては、求人数が3万9,271人で対前年比は13.6%の増加、就職希望者は1万2,102人で同1.1%増加、求人倍率は3.25倍と0.36%上昇。就職未内定者数については0.5%減少して3,080人だった。

産業別求人数を見ると、最も多いのが製造業の1万7,681人で対前年同期比プラス2,700人(18.0%増)、同様に、愛知県の基幹産業である自動車産業においては21.2%増の7,467人、建設業19.4%増の4,415人。卸

売・小売業は4,365人、医療・福祉は3,417人でいずれも5.8%増となっている。

また、職業別求人状況について見てみると、事務的職業が1.8%の減少となっている以外は、求人数が大きく増加している。

前年度の平成30年3月卒業業者における愛知県の高校卒業業者就職決定者数は、8年連続で全国1位、就職決定率99.9%と驚異的な数値だったが、現在の状況で推移すれば、平成31年3月の就職決定者数・決定率はさらに伸びるものと見込まれている。

求人・求職・求人倍率の推移(高校)

